



平成8(1996)年4月の一般公開以来、多くの人に来館いただいている史跡草津宿本陣が25周年を迎えました。

大名や公家などの宿泊施設であった本陣。なかでも現存する全国の本陣で最大級といわれる草津宿本陣(田中七左衛門本陣)が、いかにして現代まで残ったのか。その軌跡やこの場所で繰り広げられたさまざまな歴史を、身近に感じてもらえるための展示にして、史跡草津宿本陣と草津宿街道交流館の2カ所で開催します。

▲本陣内の「上段の間」は本陣の中で最も格式の高い部屋で、主客の宿泊に用いられました。

▶昭和15(1940)年頃。左の白壁沿いは川だった様子が分かります。江戸時代、草津宿には「田中七左衛門本陣」と「田中九蔵本陣」2軒の本陣が設置されていましたが、田中七左衛門本陣のみが現存し「草津宿本陣」として史跡に指定されています。



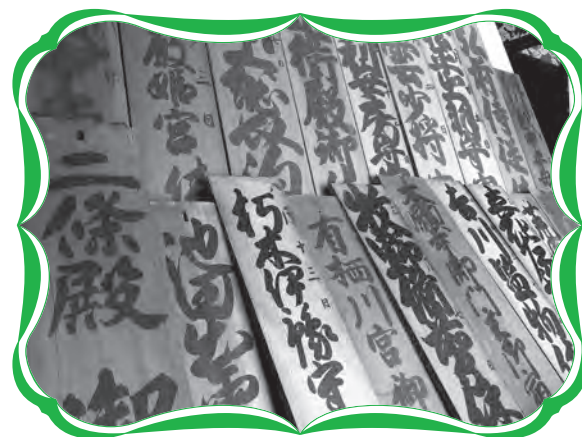
明治3(1870)年の宿駅廃止以降に各地の本陣が急速に消え去っていくなか、草津宿本陣が田中家によって代々大切に受け継がれてきたことについて紹介します。

史跡草津宿本陣



関札

大名らが本陣に宿泊する際に標識として利用した札で、本陣の表門脇や、宿場の入口に掲示しました。現在でいうところの、ホテルや旅館の前に掲げてある「〇〇様御一行」の札と同じ役割を果たしていました。草津宿本陣には木製関札約460枚、紙製関札約2,900枚が残されています。



草津宿本陣 四季彩々 早川鉄兵 作品展 「本陣にまつわる動物たち」

江戸時代に草津宿の街道を歩いたソウやラクダの切り絵の作品が展示されます

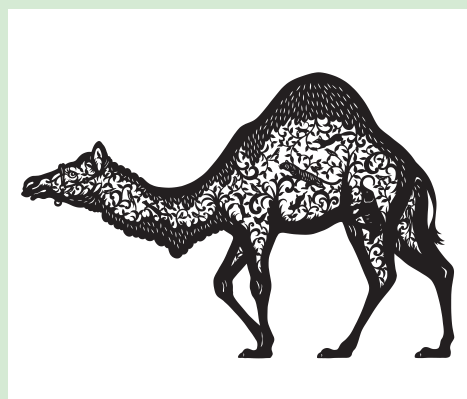
📅 7月17日(土)～8月29日(日)
📍 史跡草津宿本陣
共催 草津まちづくり株式会社

早川鉄兵さんプロフィール

切り絵作家。1982年、石川県金沢市生まれ。滋賀県米原市の伊吹山の麓に拠点を置き、日々出逢う自然や動物をテーマに制作。精密な切り絵作品にとどまらず、大掛かりなインスタレーションやライトアップを手がけるなど、新しい切り絵表現の可能性を模索。



▲展示イメージ



▲新作のラクダ

～今年、史跡草津宿本陣は一般公開25周年を迎えました！～

草津宿街道交流館夏季テーマ展 「大解剖!! 草津宿本陣 ほんじん、まるはだか!」

7月17日(土)～8月29日(日)

📍 草津宿街道交流館(草津三)、史跡草津宿本陣(草津一)
💰 2館共通券 大人350円・高大生260円・小中学生180円
📅 7月19日・26日、8月2日・10日・16日・23日は休館
📞 史跡草津宿本陣(草津一) ☎・📠561-6636

展示の一部を
紹介します

開催期間中、
2館共通券の
購入者には
ノベルティグッズを
プレゼント!



魏野湾製琺瑯

草津の領主であった膳所藩の第7代藩主・本多康恒(1714～1769年)から贈られたグラスで、表面にはうろこ状のカットが施されています。



草津宿本陣が果たした役割や宿泊のしくみなど、江戸時代の本陣がどのようなものであったのかについて、また、近年相次いで発見された新出資料についても紹介します。

草津宿街道交流館



▲江戸時代の旅と街道を中心に、展示と体験を通して草津の歴史・文化を紹介しています。



大福帳

元禄5(1692)年から明治7(1874)年に至るまでの182年間のうち、計181冊の大福帳が残されています。

(写真上) 文久元(1861)年大福帳には、10月22日皇女和宮が將軍家に嫁ぐ際に本陣で昼食を取った記録が残っています。

(写真下) 慶応元(1865)年大福帳には5月9日、新選組の土方歳三、斉藤一、伊東甲子太郎、藤堂平助ら32人が江戸からの上洛途上に、本陣で宿泊したことが記されています。一昨年、新選組の幹部の物と思われる失念物(忘れ物)も発見され、大福帳の記載と一致しました。



寒山拾得図襖・戸袋

田中七左衛門本陣仏間の襖に描かれていた江戸時代後期の画家岸袋の作品。中国の伝説的な高僧、寒山と拾得2人が描かれています。